

3. 治療法

治療の目的には主に次のような事があげられます。

- ①頭蓋を拡大し、頭蓋内圧の正常化をはかり、慢性的な頭蓋内圧亢進による脳障害や神経障害を改善・予防する。
- ②頭蓋・顔面の形態を改善する。また形態異常による児の心理的影響を取り除く。

治療方法は外科的な治療つまり手術が必要です。どこの頭蓋縫合が早期癒合しているのか、年齢や合併疾患（水頭症など）があるのかなどを考慮し決定します。

手術の時期は頭蓋内圧亢進のある場合や呼吸障害のある場合等は早期手術を必要とすることがありますが、そうではない場合は生後6ヶ月以後まで待つことが多く、さらに顔面骨も併せた治療は通常永久歯の影響を考え学童期での治療を検討します。

手術の方法は、早期癒合している頭蓋縫合を切除するだけのものから骨延長法を用いた頭蓋形成術まで様々な方法があります。同一病名であってもお子さんの状況や施設によって選択する方法に違いがあります。

- ①縫合切除術：生後3ヶ月以内の矢状縫合早期癒合で行われる事があります。術後にヘルメットを使用する施設もあります。

- ②頭蓋骨形成術：開頭を行って治療する方法です。術中に適した形に形成する方法と骨延長器を用いてゆっくり徐々に延長・形成を行う方法があります。骨延長器を用いた方法には、棒状の延長器を使用する方法のほかにMCDO（マクド）法と呼ばれる多方向に延長が可能な方法も開発されています。

最も大きな合併症は術中大量出血で症例数の多い施設でも1%程度生じるとされています。

短頭蓋例

